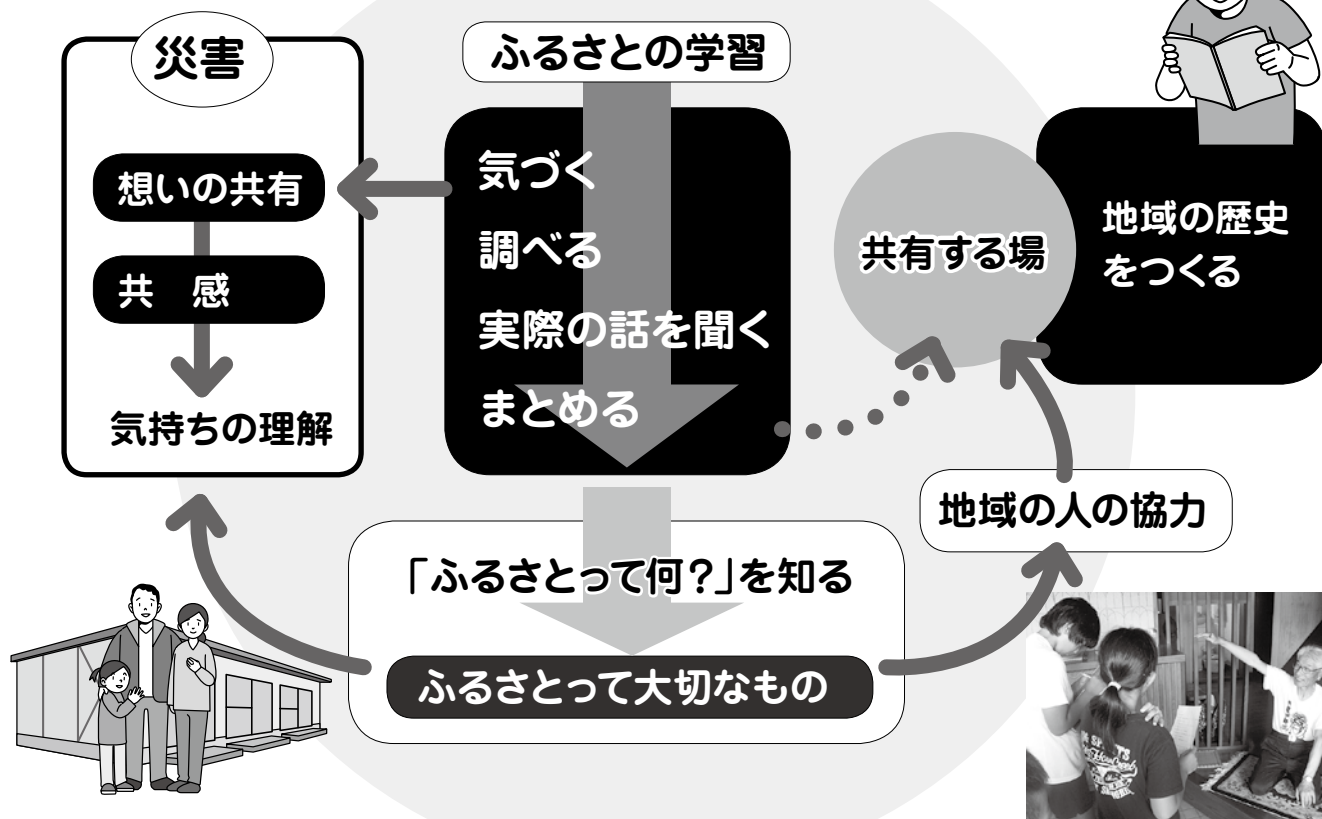


ポイント

災害からふるさとの思いを学ぶ（発見）



災害から学ぶ「私たちの地域」

災害から何を学ぶことができるか。防災の視点から学ぶ、被災地の支援をする…様々な視点がある中で、5年生担任の藤田先生が見ていたのは「それでも力強く地域を立て直そうとする人々の姿」でした。

あの災害の甚大な被害で多くのものを失いながら、なぜそこへ帰りたいと思うのか…それが「ふるさとだから」。ならば、なぜそのようにふるさとは大切なものなのか。5年生の子どもたちの学びは、災害の学びではなく、ふるさとの学びとして深まっていきました。

こんなところが「地域のまなび」の鍵！

他者への想像力のためには、自分の中にその思いを持つこと

被災地の映像を見ながら、常盤の水害のことを思う。「わがこと」に引き寄せて考えることで、そこに共感が生まれました。「ふるさとへ帰りたい気持ちは、私たちと同じ」という感想を持った子どもたち。学びを通して「ふるさと」への思いを自分たちの中に育てることができたからからこそ、遠い町の人がふるさとへ寄せる思いも想像できるのです。

実体験には力がある

実際に体験した人の話には、力があります。「担任が1時間をかけて説明して映像を見せるよりは、実際に災害に遭った方から10分お話を聞くほうが価値がある（酒井校長先生）」。30年前の水害を体験していたのは、子

どもたちに身近な人々でした。それでも、機会がなくてはまとめて話を聞くこともありません。リアルな話に、「みんなすごかったんだ」「頑張ったんだな」と驚き、感動していました。

子どもたちが地域の歴史をつくった

子どもたちの調査を、地域の大人たちが支えてくれました。子どもたちは、自分たちの知ったこと、驚きを伝えたいと思っていました。地域の方々は、その成果を発表し、地域の人と共有する場を設けてくれました。「地域の人たち一人ひとりの記憶が、子どもたちによって『地域の記録』となった」（藤田先生）。そのままでは薄れ、消えていってしまう地域の人々の思いや災害の記憶が、この調査によって大切な地域の歴史になりました。子どもたちは地域のために大きな貢献をしたのです。

協力：飯山市立常盤小学校（飯山市）

発行日：平成26年1月20日 発行：社会福祉法人 長野県社会福祉協議会 総務企画部 地域福祉推進グループ

〒380-0928 長野市若里7-1-7 TEL.026-226-1882 FAX.026-228-0130
E-mail vcenter@nsyakyo.or.jp URL http://www.nsyakyo.or.jp/



ふっころ

小学生ボランティア新聞 ふろく

ふるさにとってなんだろう？

*本紙の特集事例をよりくわしく解説！あわせてご活用ください。

先生方へ
やまびこだより
No.130
今号の特集から

常盤で生きる 「昭和58年洪水」にふるさとを学ぶ 飯山市立常盤小学校 5 学年の活動から



事例の概要

東日本大震災の被災地と私たちの地域

東日本大震災についてのニュース映像を見ていた常盤小学校の子どもたち。「かわいそう」「どうしてあんなにつらい思いをしたのに、帰りたいんだろう？」「また津波が来るかもしれないのに…」そんな疑問が、学びのはじまりでした。

子どもたちのふるさとである飯山市常盤地区も、度重なる水害に悩まされてきました。寛永2年(1742年)の「戊の満水」では、何千人もの人が亡くなったと伝えられています。

昭和58年(1983年)にも千曲川が決壊し、地区は泥の海になりました。常盤小学校も被災しました。身近な人たちが災害と復興を体験しています。その体験談

を通してふるさとを考え、ふるさとへ帰りたいという東北の人々の気持ちに寄り添えたら…そんな5年生担任の藤田茂樹先生の思いから、「常盤に生きる」の授業が始まりました。

まず、家族などの身近な人に当時の話を聞くところから始めました。30年前の水害のことを、しっかりと聞いたのは初めてのことでした。当時の新聞も読みました。当時の学校の文集には、子どもたちのお父さん、お母さんの作文が載っていました。30年前だけでなく、昔からここでは多くの災害が起きていたことも知りました。

夏休みには、子どもたちはグループに分かれて、地区の人たちに聞き取り調査を行いました。「30年前の災害の時はどんな様子でしたか？」「どんなことを考えましたか？」「洪水を経験しても、常盤に住み

続けているのはなぜですか？」「今度洪水の被害にあっても、ここに住み続けますか？」。夏休みに地域の家々を訪問して、話を聞きました。お会いした人の数は授業全体で200人にのぼります。「再び災害があってもここに暮らす。先祖代々のふるさとだもの」という人がほとんどでした。

昔からみんなが助け合ってふるさとを守ってきたし、自分の身近な人たちもそうやって立ち上がってきたことを子どもたちは知りました。調べたことを地域で発表し、これからは自分たちもそうしていくのだという思いを持ちました。なぜなら、ここが自分たちの「ふるさと」と知ったからです。「東北の人たちも、ふるさに帰りたい気持ちは同じなんだ」。常盤を大切に思う人々の思いに触れた子どもたちの気持ちが、被災した人々の気持ちに重なりました。

